

高江にウスギムヨウラン

専門家「分布の南限か」



【東】環境NGO「やんばるの自然を歩む会」の玉城長正代表(74)は4月、東村高江の山林で準絶滅危惧種のラン「ウスギムヨウラン(ウスギムヨウラン)」を発見した。県内では国頭村で2008年初めて見つかった。横田昌嗣琉大教授(植物分類学)は東村での生息が正式に確認できれば「分布の南限になり、植物地理学上かなり貴重」としている。



分布域南限の生息の可能性があるウスギムヨウラン。4月、東村高江(玉城長正さん提供)

横田教授によると、このランは薄黄色の花を咲かせる。本州南部、四国、九州に分布するが、琉球列島では希少で、県のレッドデータブックに掲載される可能性が非常に高いという。

玉城さんは、東村高江区で進む米軍ヘリ着陸帯工事や伐採によって、「希少なランの生息がかく乱されかねない」と懸念した。